

学生協ニュース

No. 4 1

東北大学学生生活協議会広報委員会

「有朋寮」名義ビラ等による誹謗中傷について

大学は、本年3月末で使用停止した旧有朋寮建物の管理責任を負っているため、3月28日に、学生協議員、事務職員と工事関係者が旧有朋寮の現況確認作業と、近隣住民の安全確保を目的とする同敷地の仮囲い作業を実施しようとしてしました。そして、この実施に当たっては、事前に旧有朋寮生に連絡を取り、作業に協力するよう要請しました。しかし、旧有朋寮生と学内及び学外の支援者計約40名によって旧有朋寮敷地内への立ち入りを阻まれたため、上記の作業は全く実施できませんでした。その際、西森農学研究科教授（当時：学生協議員）が、一名の学外支援者に突き倒され頭部に怪我をしました。同教授は、医師による治療診察を受け、後日、警察に被害届を提出しました。

この事件に対して、「有朋寮」名義の印刷物（いわゆるビラ）が、連日大量にばらまかれています。その内容は、事実を著しくねじ曲げ、さらに、西森教授個人を標的にして、執拗にその人格・名誉を傷つけようとする、悪質且つ卑劣なものです。また拡声器を使った旧有朋寮生や日就寮生らによるアジ演説でも極端な事実のねじ曲げと陰湿な個人への誹謗中傷が繰り返されています。

この件について、全学生と教職員に対し、事実を改めてお知らせするとともに「有朋寮」名義でビラを発行している者に対し、今後このような事を一切行わないよう強く求めます。

1 ビラに繰り返し見られる事実のねじ曲げ

① ビラには、「西森教授は自分から地面に座り込む・・・」「突然地面に座り込んで頭を抱え・・・」と記載されています。

事実：上記の現況確認作業の一環として、当日、西森教授を含む複数の教職員が、旧有朋寮建物内部の使用状況（空室状況）と外回りの状況把握を行うために、旧有朋寮敷地内への立ち入りを求めましたが、旧有朋寮生と学内及び学外の支援者約40名が敷地入口付近にバリケードを設けてこれを阻んだばかりではなく、教職員への威嚇を行いました。そのような状況の中で、一名の学外支援者が突然西森教授を突き倒し、その結果、同教授は後頭部を強く地面で打ち負傷しました。

このような事実経過は、近くにいた複数の教職員、さらには、教職員の立ち入りを阻もうとしていた旧有朋寮生・学内外支援者の少なくとも何人かが目撃したところです。

言うまでもなく、当日、誰がどのような阻止行動を行うかなど、大学側が事前に知り得た筈はなく、したがって、当該学外支援者を陥れる目的で教職員がわざと転倒するなどは論理的に成り立ち得ない話です。また、後頭部を強く地面で打ち相当の傷を負ったといういたましい事実を照らすなら、「自分からわざと転倒した」というのが、いかに恥知らずでちゃちな作り話であるかは明らかでしょう。なお、当日、教職員がカメラやビデオによる撮影を行いました。これは現況確認作業の一環として、当時の旧有朋寮の様子を記録する目的で行ったもので、その結果、この傷害事件も記録することになった次第です。

既に述べたように、旧有朋寮生や学内支援者の何人かは、当該学外支援者が暴力行為に及んで、その結果、ひとりの教官が負傷した様子を目撃した筈です。あるいは何者かの組織的暴力が怖くて口をつぐんでいるのかも知れませんが、当日事件を目撃した学生諸君は、勇気をふるって良心に基づき、自分の目撃した真実を証言してください。又、自分たちの「闘争」を「支援」する者に対してであっても、暴力行為を行うことには、はっきりと反対・批判する意思を示してください。

私どもは、それこそが、東北大生として、又、人間として、とるべき道だと信じます。しかし、悲しむべき事に、「有朋寮」の名義で出されているビラでは、真実の告白も暴力への批判も全く見られないどころか、既に述べたように、事実のねじ曲げが繰り返されるばかりです。私どもは勇気ある真実の告白と暴力への批判を切に望みますが、それが直ちには難しいのなら、せめて事実のねじ曲げだけは即刻やめるよう強く求めます。

② ピラには、「3月28日のデッチ上げの「手柄」を買われ、4月1日から学長特別補佐に「昇進」と記載されています。

事実：西森教授の人事(学生生活担当特別補佐への就任)は、3月初旬に既に決定されており、この事は、複数の学内の会合においても確認されております。したがって、これも全く根拠のない作り話という外はありません。

それにしても、「手柄」を買われて「昇進」という筋立てを作り上げるというのは、このピラを書いた者の発想が驚くほど幼稚且つ品性下劣であることを示しているという印象をいだかざるを得ません。

学生生活担当特別補佐というのは、苦勞が多い割に目に見える形で報われることが少ない役職で、これまでも、自分の研究・教育や私生活にある程度犠牲にしても、本学学生の学園生活の向上に役立ちたいという熱意を持った教官に就任をお願いしてきました。西森教授も、特に学生生活問題解決への強い熱意と高い職見を備えていらっしやるという理由で、本学が強くお願いして本年4月1日から特別補佐役をお引き受け頂いたところです。

2 個人への卑劣且つ執拗な攻撃

① アジ演説では、「転び屋西森」、「本学からたたき出せ」などの言動を繰り返しています。これは事実と反する言動によって個人の人格・名誉を著しく傷つける行為であるばかりでなく、集団的暴力の行使を暗示して個人を威嚇するものです。

アジ演説では、「反戦」を訴えることもあるようですが、一方において米軍の空爆によって多くのイラク市民が死傷することを非難しながら、自分たちは、集団で個人の人格、尊厳を踏みにじり、さらには暴力をちらつかせて個人を恐怖に陥れようと企てるのは、市民としての最低のモラルも欠如していることを窺わせると言わざるを得ません。

② 西森農学研究科教授の自宅郵便受けにピラ束が投げ込まれる

6月10日(火)午後8時頃及び同12日(木)午後8時頃、学生生活担当特別補佐である西森農学研究科教授の自宅郵便受けに、「有朋寮」名で「転び屋」西森(農学部教授)は恥を知れ!、無実の市民を陥れて「出世」!西森は最低の人間だ!」などと書かれたピラ束が投げ込まれているのが発見されました。

これは、私的な生活空間にまで侵入して、個人攻撃を行ったもので、極めて悪質且つ卑劣な行為です。

3 名誉毀損、威嚇、プライバシー侵害行為を続けている者への警告

このような、事実をねじ曲げて個人の人格、名誉を著しく傷つける行為、又、集団的暴力を背景に個人を威嚇する行為は、個人の尊厳と言論・思想の自由を尊重し、暴力を否定する大学において決してあってはならない事であるばかりでなく、犯罪にも当たる行為です。以上に述べた外にも、ピラに個人の自宅電話番号や写真を本人に無断で掲載して、個人への「抗議」と称するいやがらせをおこなうことも行われていますが、これは明らかなプライバシー侵害を含む不法な行為です。

大学は、以上のような行為を絶対に容認しません。かかる行為を行ってきた者に対し、直ちにやめるよう強く要求します。又、もし今後もかかる行為を続けるのならば大学はそれをやめさせるために、必要な措置をとらざる得なくなるでしょう。